



梅沢 政隆
リポーター



大久保勝男
リポーター



大石 純夫
リポーター

消費者トラブルを学ぶ

消費者力アップ講習会

6月20日



講習会は各市民センターで開催される予定です

消費者トラブルを学ぶ講習会が長内市民センターで開催され、15人が参加しました。消費生活センターの職員が、相談があった訪問販売や架空請求などの事例を紹介。木戸口徳和さんは「若い人もだまされていると聞きました。不審な電話に出ないよう気をつけます」と語りました。

夏の風物詩がスタート

北限の海女素潜り実演

7月1日～



ウニを両手に抱える海女

北限の海女素潜り実演がスタートしました。1日は安全祈願祭を開催。雨が降る中、3人の海女が海に潜り、両手に抱えたウニを観光客に披露しました。ウニは1つ千円で振る舞われ、千葉から訪れた中村哲夫さんは「海の味がして甘くておいしいです」と笑みを浮かべました。

大にぎわいの小久慈朝市

第30回記念小久慈朝市

7月13日



開会と同時に目当ての店で買い物を楽しむ来場者

第30回の小久慈朝市が旧長内中学校で開催されました。小久慈プレイヤーズの開会宣言で始めると、来場者は野菜や田楽、自家焙煎コーヒーなどを品定め。30回を記念して米やクッキーなどが当たる抽選も開催され、約350人の来場で大にぎわいの朝市になりました。(大久保)

つなげよう 笑顔 元気 きずな

ふれあい福祉まつり

7月12日



白杖を使って障害物を確認しながら慎重に歩く参加者

福祉の村でふれあい福祉まつりが開催され、点字や手話などを体験するスタンプラリーを通じて、多くの方が福祉への理解を深めました。白杖を体験した久慈小1年の西野月葉さんは「目が見えないのは大変で困っている人がいたら助けたいと思います」と語りました。

海水浴シーズンを前に学習

久喜小学校着衣水泳授業

7月18日



ペットボトルで体を浮かせる方法を体験する児童

久喜小学校が野田村村民プールで着衣水泳の授業を開催し、全校児童30人と保護者が救急救命や溺れている人の助け方などを学びました。6年生の小林紗季さんは「溺れている人は泳いで助けにいけないので、119番通報と浮く物を投げるようにしたいです」と表情を引き締めました。

最年長は97歳！シニアパワーが炸裂

いきいきシニアスポーツ大会

7月4日



応援で「宇宙戦艦ヤマト」をダンスと集団移動で表現した夏井選手団

60歳以上の市民が対象のスポーツ大会が、久慈市マリナーナで開催されました。市内10地区から代表選手や応援団など約400人が参加。白熱の競技に、大歓声と拍手が響きわたりました。応援部門では各チームが工夫をこらした演技を披露し、大会を盛り上げました。(梅沢)



1/秋まつりの魅力を語る、に組の嵯峨崇さん 2/昨年山車組に参加した生徒も参加し、巽町組がオリジナルを含めた4種類のお囃子を紹介 3/秋まつりへの思いとともに迫力の音頭上げが披露されました

戦後80年目の夏を迎える

令和7年度久慈市戦没者追悼式

7月9日



掲示された遺影写真に思いをはせる参列者

戦後80年の節目となる久慈市戦没者追悼式が市内催事場で挙行政され、遺族ら約70人が参列しました。市遺族会の米内肇会長らから追悼の言葉が捧げられ、参列者が戦地で亡くなった家族への思いを込めて献花。戦没者822人の冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。

故郷の魅力を発信！

山形中学校「山形屋」盛岡出張

7月3日



らら・いわて盛岡店で販売した生徒

総合学習で地域の食や観光を学ぶ山形中学校の2年生11人が、盛岡市で特産品販売会を行いました。自分たちで作成したパンフレットを配布し、短角牛レトルト商品やハウレンソウなど40品を販売。谷地一輝さんは「地元の魅力が伝えられてうれしいです」と声を弾ませました。



まちのわだい

地域行事を理解し地域に貢献

久慈中学校秋まつり講演

7月10日



久慈秋まつり講演会が久慈中学校で行われ、同校の生徒約350人が地域の伝統行事について理解を深めました。生徒の地域活動への参加や地域貢献を推進する同校と、久慈秋まつり実行委員会が開催。山車組のひとつ、に組の嵯峨崇さんが秋まつりの歴史や秋まつりと共に育った自身の経験を紹介。まつりは地域のつながりを持つために重要だと力説し、参加して地域の人と関わりを持ち、地域を担う大人になってほしいと伝えました。巽町組はお囃子と音頭上げを披露。お祭りの熱気を伝えました。

3年生の熊谷野乃花さんは「私も久慈秋まつりに参加し、多くの人と関わって地域に貢献していきたいです」と決意を述べました。

てしごとの品を大事に使おう

ふらっとてしごといち

6月29日



木を薄く削り出した製品を吟味する来場者

旧霜畑小学校でふらっとてしごといちが開催されました。昨年まで主催していた市民団体minaraiが、地元の自治会や老人クラブとともに実行委員会を組織して開催。昨年を上回る47の事業者が出店し、約2,500人の来場者が温かみのある手作りの品や工芸品などを買い求めました。

災害への備えの重要性を再確認

防災研修

6月30日



熱心に説明を聞く参加者

長内市民センターが防災研修を開催し、36人が釜石市と大槌町を訪問しました。釜石の命をつなぐ未来館では、震災当時中学生の語り部から「釜石の出来事」や備えの必要性を学習。大槌では被害の状況を学び、復興スタジアムを見学するなど充実した研修になりました。(大石)